

六甲山の自然＋現代美術

「ミーツ・アート 秋の定番

インスタ映え 女性客つかむ

六甲ガーデンテラスに先行展示されている光の演出「見晴らしの塔&パラソルライティング」＝いずれも神戸市灘区六甲山町



10回目、13日開幕

六甲山の自然を背景に現代アートを展示するイベント「六甲ミーツ・アート」（13日～11月24日）が今年で10回目を迎える。山上を美術館に見立てるユニークな展示。作品の魅力に加え、ハイキング気分で散策すると、巨大な立体作品などに突然出合う意外性も人気だ。期間中の六甲ケーブルの乗降客数は約10万人から15万人台に増え、秋の観光スポットの一つに定着した。

（金井恒幸）

六甲山上に観光施設を持つ阪神電鉄と関連会社の六甲山観光が2010年に始めた。主な会場は六甲ガーデンテラス▽六甲山カンツリーハウス▽六甲オルゴールミュージアム▽六甲高山植物園の4施設と周辺で、彫刻や空間芸術（インスタレーション）などを展示する。

六甲山は明治期、居留外



2016年には巨大な靴が六甲山カンツリーハウスの草原に登場した

国人のレジャー地として開発された。戦後は企業保養所できわったが、阪神・淡路大震災などで観光客が減少。そこで夏休みとスキーシーズンのほがまの集客を狙って企画された。

主要各施設の入場者は、

開催前の同時期の24万～26万人台から32万～40万人台に増えた。約7割が女性で20～30代が半数近くを占める。

作家は招待と公募入選を合わせて毎年30～40組。著名作家も参加し、今年には俳優の浅野忠信さんが出品する。公募は、海外を含め毎年200～300点近くが集まるほど浸透し、若手の

登竜門の役割も果たす。

ケーブルで六甲山上駅へ向かうと、神戸港を見渡す展望施設「天覧台」に到着する。8月から先行会場となっており、カフェには白い羊をかたどった立体造形が飾られ、モダンな店内を

引き立てる。山頂近くの六甲ガーデンテラスでは夜間、「インスタ映え」するライトアップの演出もある。

出品作のモチーフには可能な限り、六甲の自然や文化などを求める。過去には風で音楽を奏でる作品や、六甲山に多数生息するイノシシを「森の番人」と捉えた立体などが展示された。

芸術祭 地域色強調が継続の鍵

芸術を地域活性化に生かそうとする動きは各地で見られるが、課題もある。

神戸市などが2年に1度開いてきた「神戸ビエンナーレ」は2015年、事業費確保が困難になるなどして5回目で終了した。その後は後継的なイベントが開かれているが、各地の芸術祭とも資金や人員不足が悩みの種だ。

「六甲ミーツ・アート」で公募展審査員を務めるデザイン・クリエイティブセンター神戸（神戸市中央区）の芹沢高志セ

ンター長(68)は「『六甲ミーツ～』が自然にこだわるように(継続には)地域に根差した特徴が必要」と指摘する。

兵庫県内の各芸術祭が連携する動きもある。神戸市、豊岡市などの自治体や実行委員会は14年、「アート de 元気ネットワークひょうご推進会議」を設立し、現在は12団体が加盟。18年度は演劇や音楽を中心とした豊岡市の催しや、養父市の木彫り作品展などを冊子にまとめ共同でPRした。

（金井恒幸）

ただ野外の魅力は、自然が脅威になると紙一重。台風で作品が破損したり、六甲ケーブルが土砂災害で停止したりと、数々の苦難を乗り越え10年を刻んだ。

今後について、総合ディレクターの高見澤清隆さん(62)は「夜間鑑賞を充実させ、夜も楽しめる国内で珍しい芸術祭にしたい」としている。

前売りは中学生以上1900円(当日2200円)、4歳～小学生950円(同1100円)。インフォメーション ☎078・891・0048